

## 9月22日開会式挨拶

皆様ようこそいらっしゃいました。

元ブルキナファソ大使池崎保氏、元リヨン日本領事事務所長倉富健治氏、元リヨン日本領事事務所長小林龍一郎氏、ジャン＝フランソワ・リオンデご夫妻、小林裕和先生のご家族、古くからの友人である皆様、ご列席いただき大変光栄です。こうしてお集まりいただいた皆様に、私は大きな喜びを感じております。

皆様のご参加は、これから私がお話すプロジェクトを進める上で精神的な支えとなります。プロジェクトとは、この上なく重要な遺産を日本にお返し、小林裕和という名を歴史に刻むというものです。

小林先生は、精神的な認識による理解を心と体による理解に結びつけることのできる、類まれなる知性を備えた方でした。そのことは、複雑かつ洗練された動き、また、複雑さと簡潔さが結びつくことでもたらされる最上級の質を目指す動きとして、先生の合気道に表現されています。

先生の姿勢の疑いようのない完璧さには魂の正しさが表現されていました。先生は信念を貫く方でした。自らの国に対して揺るぎない愛着を抱き、それと同時に、世界および世界の多様性へと広く開かれている方でした。

先生にとって伝統は足枷ではありませんでした。それどころか、先生は伝統に依拠することで合気道の新たな領域を切り開き、私達はその恩恵を受けているのです。

先生に師事してから最初の数年間、私が驚いたのは、先生の完璧なまでの言行一致でした。また、先生は限りなく寛大な方でした。先生の思想の中心を成すものの一つに、「まず与えなければならぬ、見返りを期待せず与えなければならぬ」というものがあり、それはまさに先生が身をもって行っていたことでした。先生は、「エネルギーというものは与えれば与えるほどおのずと湧いてくる」とも述べていました。理想は何よりも利他主義と普遍主義から作られるとしていた先生、その姿を目の当たりにすることで、私も自分自身の理想を作り上げることができました。

小林先生への賛辞は何時間でも述べ続けることができるのですが、本日皆様にお伝えしたいのは別の内容です。

小林先生の師である植芝盛平翁先生は晩年、世の中の平和は、各個人が自らのうちに見出す平和、つまり心と体の一体性にかかっているという結論に達しました。翁先生は正真正銘の神秘主義者で、先見の明を持っており、精神的、さらには霊的な取り組みを行っていることは明らかでした。翁先生の技は、彼が精進していたかつての武術では十二分に有効でした。私は、翁先生の貢献が人類の平和の追求において大きな前進となることを十分認識しています。その上で、おこがましいと言われるかもしれませんが、翁先生の技はまだ完成には至っていなかったと私は考えています。平和主義思想の目的と実践との間に溝が残っていたのです。話したり語ったりするのは実践とは別のレベルであって、語りしめるのはあくまで技によってでなければなりません。

小林先生は翁先生の遺産を受け継ぎ、それを超越しました。小林先生は技を発展させ、しかもそれはいくつもの側面に及ぶものでした。武術の原理の適用と平和的な目的との間にあった溝を埋めました。先生の技に補足説明はいりません。技の動きの中に翁先生の言わんとするところが表されているからです。技には平和主義思想の目的が含まれており、それが直接表現されています。技を通じて、翁先生が必要であると述べていた内なる平和、つまり心と体の一体性が徐々に作り上げられていくのです。

小林先生の技の優れた点は、手と手首の力を抜くことで、真の合わせ技を可能にすることです。仕手と受けの接触は力を用いずなされます。それゆえ抵抗もありません。「めぐり」は小林先生の素晴らしい発明で、他のどの流派にも見られません。それでありながら、めぐりは仕手が危険にさらされずに、攻撃者を仕手の身体周囲の空間に入らせる上で欠くことができません。攻めと仕手が互いの身体周囲の空間に入ることは、魂と魂を結ぶためにはどうしても必要なのです。

めぐりは身体的な接触以前に「気の結び」を生み出すことを可能にします。「気の結び」はあらゆるレベルの関係性に及び、適用されるものです。これは精神的な結びつき、感情的な結びつき、身体的な結びつきという、三つの結びつきから成るもので、これらが組み合わさることで意識の共有がはかられます。受け、攻め、一つの意識、これこそ小林先生が稽古のたびに繰り返していた「受け即攻め、攻め即受け」という言葉の意味なのです。

思考と身体がこのように一致することで、合気道における一体の動作が可能となります。これはつまり受けと攻めの間の一体化ということなのですが、この体験が、両者それぞれのうちに少しずつ心と体の一体性を確立していくのです。

めぐりが生み出す「気の流れ」は、流れるように動く共通の動作の繰り返しを可能にします。めぐりによって技が動的に見えることで、流れる動きに力強さと素早さが加わります。それにより、自分の体の位置、動きに関する欠陥、感覚の不

毛地帯を修復し、感覚運動能力を改善します。つまり、小林先生の技は意識と身体を同時に究極の深さ、つまり魂に至るまで修復するのです。

これは武道の歴史、合気道の歴史、ひいては人類の歴史において新しいことです。身体的実践によってここまでの深みに達した者は誰もいませんでした。合気道における平和主義的な言葉と実際の身体動作の間にあった溝は小林先生によって埋められたのです。先生はこの二元性を克服し、攻撃、暴力、戦争へと駆り立てるものから私達の意識と身体を解放するすべを見い出しました。先生がこれをやり遂げたことで、「敗者を作らない勝利」が可能となったのです。

この技は宝であり、前例がないほどの価値を持つ無形遺産です。そこには類まれなる将来が約束されています。であるがゆえ、「根を培わなければならない」という、小林先生が何度も繰り返していた教えを守るためにも、私は先生の技を日本でよみがえらせたいのです。

合気道家ではない方や初心者の方、さらには熟練者にとって、小林先生の技について私がこうして述べることを個人的な感情に結びつけるのが容易でないことは承知しています。というのも、私が経験した喜びや先生との絶えざる交流、魂と魂を結び、壊すことのできないつながりを生み出す、体から体への経験がそこには欠けているからです。

小林先生の才能が私達の人生をどれほどまで変えるか、皆様がそのことを私の言葉の中に聞き取ったならば、私が向かう先をご理解いただき、皆様もそこに加わりたいと思われるのではないのでしょうか。プロジェクトを進める上で、皆様のご協力が決定的となります。プロジェクトの目的は、日本において小林先生の技をよみがえらせる、先生の偉大さと洞察力の深さを示すために先生の技を発展させる、そして、先生の師である翁先生の平和のメッセージが技の中にどのように込められているのか理解を促すことです。これらが達成されたなら、平和のメッセージは世代を超えて伝わり、小林先生と翁先生が切望したように、この世界で平和が何よりも価値を持つものとなるでしょう。